（資料）

REFRANERO ESPAÑOL (34)
スペインの諺辞典

Bernardo Villasanz*(ed.)
新　井　藍　子**

1271. Parécense como un huevo a otro.
卵と卵が似ているように　そっくりである

- 一つひとつの卵の見分けがつかないように，顔かたちが見分けのつかないくらいよく似ていることのたとえ。（筆者の諺辞典，諺 266 を参照のこと）
- コレアス諺集には，“卵 — güevo”の古い表記で“Parécense como un güevo a otro. そっくりである”が収載されている。
- 例題 1：ドン・キホーテ第二部 14 章，おてまえが負かしたと言われるそのドン・キホーテは，果たしててまえであるかどうか，と尋ねるドン・キホーテに鏡の騎士が言う，“...que parecéis, como se parece un huevo a otro, al mismo caballero que yo vencí;...おてまえは，玉子が玉子に似るごとく，てまえの負かした騎士にそっくりでござるが，...”（続編一，永田寛定訳）
- 例題 2：ドン・キホーテ第二部 27 章，村の者たちの前で滔々とイエスの教えを述べるドン・キホーテを評して，サンチョが口を挟む，“...si este amo no es teólogo; y si no lo es, que lo parece como un güevo a otro. 神学者でねえにしてもよ，玉子が玉子に似るように，そっくりだて。...”（続編二，永田寛定訳）

* Edición y revisión. Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.
** Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

– スペインでは，よく似ているたとえに卵を用いるが，日本では“瓜”にたとえて“瓜二つ”，“瓜を二つに割ったよう”という。瓜を縦に二つに切ると，その二つが全く同じ形をしているところからきている。

1272. Parécense como un huevo a una castaña.
卵と栗が似ていないように　まったく似ていない

– 卵と栗のかたちが全然違うように，顔かたちがまるで似ていないことのたとえ。（筆者の諺辞典，諺 267 を参照のこと）
– コレアス諺集には，前の諺と同様に“Parécense como un güevo a una castaña. まったく似ていない”が収載されている。
– ズバルビィ諺辞典には，同義で“Parecerse una cosa a otra como huevo a una gallina. 卵と鶏が似ていないように，まったく似ていない”がある。
– 日本では，まったく似ていない，比較にならないほど大きな違いがあることをたとえて“月と鼈（すっぽん）”，“提灯に釣り鐘”，“雪と墨”，“雲泥の差”などと言う。このように，比較しているものどうしに意外性がありいかにも諺らしい誇張表現が面白い。

1273. Parecerse como un diablo a otro.
悪魔と悪魔が似ているように　そっくりである

– 二人の人とか，二つのものが極めてよく似ている，或は，同類である。（スバルビィ）
– 例題：ドン・キホーテ第一部 31 章，ドゥルシネーア姫はふくいくとしたいい香りがしなかったかとドン・キホーテにきかれたサンチョは，実際には姫に会ってもいないのに，こう答える，“...; que muchas veces sale de mí aquel olor que entonces me pareció que salía de su merced de la señora Dulcinea; pero no hay de qué maravillarse, que un diablo parece a otro. あの時ドゥルシネーア様のおからだから出ると思った臭いは，わしからもちょいちょい出るだからね。けんど，ふしぎはねえだよ，鬼っころと鬼っころは似るはずだもの。”（正編二，永田寛定訳）ここで，サンチョは，百姓どうし，同じ種類の汗の臭いがしていたという意でこの成句を使っている。
– 日本では，一般的によく似ていることを，すでに見てきたように“瓜二つ”（筆者の諺辞典，諺 1271 を参照のこと）というが，外見は違うように見えても，実体は同類，

仲間であることを言いたい場合には，“同じ穴の狢（むじな）”，“同じ穴の狸”，“一つの穴の狐”などとたとえて言う。“故事ことわざ活用辞典”によると，よくない仲間，悪人について言うそうである。

1274. Paredes (Las) oyen.
壁に耳あり

– 密談をする時には，用心しなければならないと言うおしえ。（バロス）漏らしてはならぬ事を話す時は，どこで話すかに注意を払わなければならない。（スペイン王立アカデミー辞書）われわれを危険な立場に追いやったり，他の人々に迷惑をかけるような事柄を話す時は，慎重に用心深くしなければならないというおしえ。（イリバレン）
– “宝典”（コバルビアス）には，異表現“Las paredes tienen oydos. 壁に耳あり”が収載されている，また，類義には“Cuando fueres por camino, no digas mal de tu enemigo. 道を歩いている時には，敵の悪口を言うな”（筆者の諺辞典，諺 343 を参照のこと），“Cuando fueres por camino no digas de tu vecino, o de tu enemigo. 道を歩いている時には，隣人の悪口を言うな，或は，敵の悪口を言うな”，“Cuando hablares de alguien, mira de quién, adónde y qué, cómo, cuándo y a quién. 誰かのうわさをする時は，誰について，どこで，何について，どんなふうに，いつ，そして誰に話しているのか，に気をつけるがいい”などがある。
– 標題のことわざの由来について，イリバレン（格言の由来）が次ぎのように説明している；“フランスのユグノー派（フランスの 1559 年以降のカルバン派プロテスタント calvinista の異名—筆者）に対する迫害から生まれた格言である。メディチ家のカタリーナ女王は，とても疑り深い性格で，これは怪しいと思った人たちが話している事がよく聞こえるように，王宮の壁の中に音響管を嵌め込んだ，或はこうも言われている，壁や天井に穴をあけて，それがわからないように巧みにモールディングの装飾を施し穴を隠した。どちらにしても，このようにしてカタリーナ女王は，疑わしい人物をこっそり見張っていたのである。”
– 例題 1：ドン・キホーテ第二部 48 章，公爵夫人の館の老女ドニャ・ロドリーゲスが奥方の秘密をドン・キホーテにばらそうとした瞬間，気がついてあわててこう言う，“Y aun mi señora duquesa... Quiero callar, que se suele decir que las paredes tienen oídos. そしてね，奥方さまでさえ.....あっ，黙っていましょう。だって，よ

く申しますじゃございませんか。壁に耳ありって”（続編三，高橋正武訳）

－ 例題２：セレスティーナ第１幕，カリストの従者センプロニオとセレスティーナは，主人を利用して二人でもうけようと話しながらカリストの屋敷に到着する。話し続けるセレスティーナにセンプロニオが言う，“Callemos, que a la puerta estamos y, como dicen, las paredes han oídos. 静かに，玄関先へ来たからな。人も言うように壁に耳ありだからさ。”（魔女セレスティナ，大島正訳）

－ こちらにも同義で，密談などは，どこでだれが聞いていたり見ていたりするかわからないということをたとえて，“壁に耳あり障子に目あり”，“壁に耳垣に目口”，“天に口あり地に耳あり”，“昼には目あり夜には耳あり”，“闇夜に目あり”，“藪に目”，“藪に耳”，“石に耳あり”などと言う。どこにでも目，耳，口がある，はては，一番安全だと思われている石にまで耳があるという。

1275. Pariente olvidado, a la noche es convidado.
忘れられた親戚は　夜，招かれる

－ パーティに招待するのを忘れたふりをして，誰にも見られないように皆が帰ってしまってから，貧乏な親戚を夜遅く招待することを言う。（バロス）他人である招待客を招くのに気を配っていて，親戚のことを忘れてしまい，夜，やっと思いだして招待することを言う，或るいは，貧乏な親戚が，その日は，一日中（何も食べられなくて）苦しいおもいをしたので，夜になってどうか助けてくれと泣きついたので，夜，食事に招かれたという意味にもとれる。（コレアス）

－ “Pariente ―親戚”について次ぎのような諺がある；“Parientes y trastos viejos, pocos y lejos. 親戚と古道具は，少なく，しかも離れたところ（にいるのがいい）”（役に立つより目障りである―バロス），“El pariente, como Dios te le diere ; el amigo, como tú le escogieres. 親戚は，神が与えたように，友人は，あなたが選んだように”（友人は選べるが，親戚は選べない―筆者），“Muchos parientes hay para sólo reñir y aconsejar, mas no para socorrer y remediar. 援助し，手を打ってくれるためではなく，小言を言い忠告するためにだけ，たくさんの親戚がいる”，（筆者の諺辞典，諺 975 を参照のこと），“Más vale en paz y peregrino, que entre parientes y con ruido. 気楽に放浪しているほうが，うるさい親戚の中にいるよりよい”（同諺辞典，諺 876 を参照のこと）など。

— 日本には，何か急を要する場合には，遠くに住んでいる親戚縁者より近くにいる他人のほうが頼りになるという意の“遠い親戚より近くの他人”，“遠き親子より近き他人”などのことわざがある。紀元前何千年前に書かれた旧約聖書には，身内について同じ様な意味の文が次ぎのようにすでに見られる；“Si al pobre hasta sus hermanos lo desprecian, con mayor razón sus amigos se alejarán de él. 実の兄弟も皆，貧しい人を憎む。友達ならなお，彼を遠ざける。”（箴言 19－7）“Nunca vayas con tus problemas a la casa de tu hermano. 災いの日に，あなたの兄弟の家には行くな。Más vale vecino cercano que hermano lejano. 近い隣人は遠い兄弟にまさる”（箴言 27－10）スペインの諺には反義で，いざというときに頼りになるのは，やはり身内であるという諺“El hermano para el día malo. 凶日には兄弟”（筆者の諺辞典，諺 668 を参照のこと）がある。

1276. Parto (El) de los montes.
大山鳴動してネズミ一匹

— すごいことを期待していたのに，結果的につまらない，取るに足りないことであったというたとえ。（イリバレン）事前の用意周到な計画，或は，前例などによって，おおいに期待していたのに，そうはならなかった。結果はくだらなく，ばかばかしいものであった，全くの期待外れであった。（スバルビィ）

— すでに，筆者の諺辞典では，同義で次ぎのことわざを見てきた；“Empreñar montes y parir ratones. 大山鳴動鼠一匹”（諺 516，大騒ぎしたわりにはたいしたことがなかったことのたとえ），“Mala noche y parir hija. 難産の夜明け，娘を生む（大山鳴動鼠一匹）”（諺 792 を参照のこと，難産をしたのに，期待していた男の子ではなかったという意で，非常に骨折ったのに，つまらない結果しかでないというたとえ）など。また，コレアス諺集には同義で“Parto largo, y parto malo, y hija al cabo. 長い，苦しいお産，しまいには女の子”，“Parto malo, y hija en cabo. 難産の末に女の子”などの諺が収載されている。これらの諺は，長い大変な努力の後で結果が思わしくなかったことをたとえている。

— イリバレンによると，見出しの諺の表現は，ホラティウス（古代ローマの柱冠詩人）のラテン語の格言“Parturient montes, nascetur ridiculus mus. (Parieron los montes y nació un insignificante ratón.) 大山鳴動して，つまらぬネズミ一匹が生

まれた”からきている。そこから，後にイソップが寓話に書きかえてこの話しは非常に有名になった。スペインでは，寓話作家の Samaniego のバージョンがよく知られている。

1277. ¡Paz sea en esta casa!
この家に　平和がありますように！

－ どこかの家に入るときには，こう言って挨拶しなさい，神を信じている者たちの場合は尚更である。（コレアス）
－ 諺というよりは，成句で新約聖書の次ぎのイエスのみ言葉からきている。神のおしえを広めるために，イエスは，弟子たち以外に七十二人を任命し，御自分が行くつもりのすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。そして彼らに言われた。財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶するな。“Cuando entren en una casa, saluden primero, diciendo : <Paz a esta casa.> Y si allí hay gente, su deseo de paz se cumplirá ; pero si no, no se cumplirá. どこかの家に入ったら，まず，<この家に平和がありますように>と言いなさい。平和の子がそこにいるなら，あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし，いなければ，その平和はあなたがたに戻ってくる。”（ルカによる福音書 10－5－7）
－ 例題：セレスティーナ第 4 幕，セレスティーナがメリベア姫の屋敷の玄関に入りながら，女中に挨拶する，“<Paz sea en esta casa.> このお屋敷に平和がありますように。”（魔女セレスティナ，大島正訳）
－ イエスは，彼ら（イエスがお遣わしになった七十二人）にこうも言われている，“あなたがたに耳を傾けるものは，わたしに耳を傾け，あなたがたを拒む者は，わたしを拒むのである。わたしを拒む者は，わたしを遣わされた方（主）を拒むのである。”と。彼らが町や村の人々に家に入って標題の平和の挨拶をする時，それを受け入れるということは，イエスとイエスをお遣わしになった主を受け入れるということなのであろう。

1278. Peces (Los) grandes se comen a los chicos.
大きな魚が　小さな魚を　呑みこむ

－ 常に強者が弱者を踏みつけ，抹殺することのたとえ。（バロス）権力がある者には，

泣き寝入りをするか，従うほかはないということ。

- 同義の諺には，すでに見てきたこれらの諺“A la corta o a la larga, el galgo a la liebre alcanza. 遅かれ早かれ，猟犬は兎に追いつく”（筆者の諺辞典，諺 27 を参照，いつでも強いものが勝つというのが，自然の法則であるというたとえ），“O tarde o temprano, los lobos comen al asno. 遅かれ早かれ，狼はロバを食べる”（同諺辞典，諺 1219 を参照のこと）がある。
- 日本にも力の強い者には，無理を言われても従うほかはないという意のことわざがいくつかある；“長い物には巻かれろ”，“泣く子と地頭（じとう）には勝たれぬ”，“童（わらべ）と公方人（くぼうにん）には勝たれぬ”（公方人—皇室，天皇，鎌倉時代以降は将軍のこと）など。

1279. Pedir peras al olmo.
榆（にれ）に梨を求める

- できないことを望むこと，また，見当違いの，とても当てになんかすることができないような人に期待をかけることをたとえて言う。（マリア・モリネール）
- コレアス諺集によると，標題の諺に前半の文がつぎのようについている；“Pedir a los hombres versa es pedir al olmo peras. 人に正直を求めるのは，榆に梨を求めるようなものである”　それほど，人に正直を求めるのは，無理なのであろう。今日では，後半の“Pedir peras al olmo.”のみが，使われている。
- 同義の諺には，“Pedir cotufas en el golfo. 沖合に海草を求める”（沼とか池とかの岸の傍に生える海草を沖合に船を停めて求めるのは，かなわぬものを探すのと同じである—スバルビィ），“No pidáis cerezas al cardo, que nunca las ha llevado. カルドンにサクランボを求めるな，一度も実をつけたことがないから”（筆者の諺辞典，諺 1156 を参照のこと）などがある。
- 例題 1：ドン・キホーテ第一部 22 章，ドン・キホーテから捕らわれの身を自由にしてもらった漕刑囚が，そのお返しに姫のご機嫌伺いにトボーソ村まで行ってくれるように求められたことに対してこう言う，“..., y es pedir a nosotros eso como pedir peras al olmo. ... そいつをあっしらに望むのは，にれの木に梨をよこせというようなもんでさ。”（正編二，永田寛定訳）
- 例題 2：ドン・キホーテ第二部 20 章，美しいキテーリアと結婚したがっている貧乏人のバシーリオは，高望みをしていると手厳しいサンチョの言葉，貧乏人は簡単にみ

つかる物で満足し，“..., yo soy de parecer que..... y no pedir cotufas en el golfo. 遂げられねえ望みを抱いちゃならねえと思ってるだ。”（続編一，永田寛定訳）

－ 例題 3 ：ドン・キホーテ第二部 40 章，わしが空中を駆ける木馬の鞍なり馬尻なりに乗るものと考げえるなんてのは，“..., es pedir peras al olmo. 真珠を楡の木にさがすとおんなじだて。”（続編二，永田寛定訳）

－ 例題 4 ：ドン・キホーテ第二部 52 章，公爵家の老女がドン・キホーテに言うには，公爵さまに娘のことで正しい裁きをお願いするのは，“...es pedir peras al olmo, ... 楡(にれ)の木に梨(あり)の実(み)求むるに等しゅうござりまするが故にござりまする。”（続編三，高橋正武訳）

－ 日本の諺でも，“木に縁(よ)りて魚(うお)を求む”，“山に蛤(はまぐり)を求む”，“水中に火を求む”など，スペインの見出しの諺と全く同じで，見当違いの無理なことを望むことを意味するが，日本の諺は，手段，方法を誤ってしまったために，求めるものが得られないということをもたとえて言っている。

1280. Pedrada contada, nunca ganada.
勝たぬ前の胸算用

－ ゲームをしていて，勝っていると思っている者が結局は負けてしまったり，或は，勝負事に勝つ前に手の内を読んで勝つと確信する者などを戒めている。（コレアス）そこから，バロスによると，多くの場合，本当ではないことを虚栄心から自慢したりする者を言う。

－ コレアス（諺集）によると，標題の“pedrada”とは，“argolla”というゲーム（16－18 世紀，鉄の輪に木製の玉を通す遊戯で，通った数がより多い者が勝つことになっているらしい—筆者）を指す。俗語“tener argolla —運がいい，怖がる”

－ 旧約聖書の箴言（27－2－3）でも次ぎのように自慢する者を戒めている；“Deja que sean otros los que te alaben; 自分の口で自分をほめず，他人にほめてもらえ。 no está bien que te alabes tú mismo. 自慢するのはよくない。”

－ 見出しの諺の直訳は，“勝たぬ前に（輪に）通った数を数える”で，類義の日本の諺には，“捕らぬ狸の皮算用(かわざんよう)”，“穴の狢(むじな)を値段する”，“儲けぬ前の胸算用(むなざんよう)”，“山の兎に値を付ける”，“飛ぶ鳥の献立”など，いずれも，まだ捕まえてもいないうちから，いくらに売れるか，いくら儲かるかなどを計算したりする愚かさをいう。

1281. Pelean los toros, mal para las ramas.
闘牛が喧嘩すると　とばっちりは木の枝へ

– 勢力のある者が互いに争い合うと，その下で生活している者たちが被害を蒙るというたとえ。（バロス）
– 同義の諺には“Juegan los burros y pagan los arrieros. ロバが戯れると，ロバ追いがかけずり回る”（バロス諺集）がある，また，コレアス諺集には，次ぎの異表現“Pelean los toros, y mal para las ramas; o lidian los toros. 同訳”が見られる。
– 標題の諺は，牧場で争っている雄牛なり，闘牛は，木々（夏場には太陽から身を守る木陰が必要である—筆者）にぶつかっては枝を折ったり，草を踏みにじったりして周囲にあるものに被害を与える意。

1282. Peligro (El) pasado, el voto olvidado.
災難過ぎれば　誓願も忘れられる

– 人というものは，辛い苦しい状態にいれば，どんな誓いも立てるし，どんな事でも約束するものである。しかし，一旦そのような事態が過ぎ去ってしまうと神仏にお願いしたことも，他人から受けた恩もけろりと忘れてしまうものであるという意。
– 同義の諺には“Pasado el tranco, olvidado el santo. 敷居をまたげば，聖人を忘れる”（恩知らずな者たちをいう—バロス諺集）がある。
– また，日本の諺の“喉元過ぎれば熱さを忘れる”，“病治りて医者（くすし）忘る”，“雨晴れて笠を忘る”などが，標題のスペインの諺と全く同じで，どんな苦しいことでも，過ぎてしまえば忘れてしまうものであるということ。

1283. Peligro (El) que no se teme, más presto viene.
怖れぬ災難は　すぐにやって来る

– 災難というものは，思いもしない時に人を襲うものである，ということ。
– 同義の諺には“Donde (Cuando) menos se piensa salta la liebre. 思いがけない場所で（時に）兎がとびだす”（筆者の諺辞典，諺 443 を参照），“Lo que no acaece en un año acontece en un rato. 一年間に起こらなかったことが，つかの間に起こる”（同諺辞典，諺 766 を参照）などがある。予期しない突発的な悪い出来事が起こるこ

とをたとえて日本では“藪から棒”，“青天の霹靂”などという。

－ そういう事を避けるためにも普段から用心が肝心であるという次ぎのような一連の諺がある，“Castillo apercibido, no es sorprendido. 用意万端の山城は，不意打ちされぬ”（筆者の諺辞典，諺 227 を参照），“Más vale antes que después. 用心は前にあり”（同諺辞典，諺 864 を参照），“Más vale un por si acaso que un quién pensara. 思いもしなかったより万が一の用心”（同諺辞典，諺 890 を参照）など。また，旧約聖書，シラ書（集会の書，18－25）でもこう戒めている，“En la abundancia acuérdate de la escasez, y en la riqueza acuérdate de la pobreza. 豊かなときには，飢饉のときを思い，富んでいるときには，貧乏なときを思え。”と。

1284. Pelo (El) muda la raposa, mas el natural no despoja.
狐は毛が生え変っても　性格は変わらない

－ どんなに環境が変わっても，もって生まれた性格，品性は一生変わらないということ。バロスによると，特に悪人は，悪の性質を良くすることはできない。

－ 異表現には，“Aunque muda el pelo la raposa, su natural no despoja. 同訳”（筆者の諺辞典，諺 110 を参照）がある。また，同義の諺も次ぎのように多く見られる；“Aunque la mona se vista de seda, mona se queda. 猿に冠”（同諺辞典，諺 109 を参照），“Genio y figura, hasta la sepultura. 人間の本性は墓場まで”（同諺辞典，諺 616 を参照），“El lobo muda de pelo, mas no el celo. 狼は毛が生え変わっても，性質は変わらぬ”（同諺辞典，諺 745 を参照），“Lo que en la leche se mama, en la mortaja se derrama. 吸った乳を死装束にまき散らす”（同諺辞典，諺 759 を参照）など。

－ スペインと同様に日本にも次ぎのように同義の諺が多数ある；“三つ子の魂百まで”，“雀百まで踊り忘れず”，“産屋の癖は八十まで治らぬ”，“噛む馬は死ぬまで噛む”など，いずれも幼少の頃の性格，癖は一生変わらないものだという意。

1285. Peor es lo roto que lo descosido.
ほころびは　破れより　まし

－ 二つの災難のうち，より小さいほうがましであるということ。（バロス）

－ “Del mal, el menos. 同じ不運，災難に会うなら，より小さいほうがましである”

と同義の諺。次ぎのように同義の諺がたくさんある；“Peor es la recaída que la caída. 再発するより，発病するほうがまし”（コレアス諺集），“Más vale hasta el tobillo que hasta el colodrillo. 災難は，頭まで浸かるより，足までしか浸からない方がまし”（筆者の諺辞典，諺 879 を参照），“Más vale perder lo poco que perderlo todo. 全部なくしてしまうより，少しなくすほうがまし”（同諺辞典，諺 888 を参照），“Mejor es pan duro que ninguno. 何もないより，固いパンの方がまし”（同諺辞典，諺 916 を参照），“Mejor es que el vellón se pierda que no la oveja. 羊毛がなくなった方が，羊がいなくなるよりまし”（同諺辞典，諺 917 を参照）など，いずれも二つの不運を比べて，より小さいほうがましであると言っている。

－ 日本の諺にも二つのものを比較して，“～ より ～”という表現の諺が多数あるが，上記に見てきた一連のスペインの諺のように災難とか不幸な出来事を比べて，より小さい方がましという表現の諺は見られない。

1286. Peor es meneallo.
いまさら何を言っても無駄だ　もう何も言うな

－ 諺というより俗語的表現の成句で，マリア・モリネールによると，あることをひっかきまわせばまわすほどますます人から非難されることがあらわになってくるので，そこらへんで喋るのを止めた方がいいと相手に向かって諭す表現。（筆者の諺辞典，諺 587 を参照）

－ “Peor es meneallo (menearlo)”は，同義で“Mejor es no meneallo”とも言う。また，同義の諺“Es mejor no menear el arroz, aunque se pegue. たとえご飯が，焦げついてもかきまわすな”（同辞典，諺 587 を参照）が，見出しの成句の表現がどこからきたかを具体的に言い表していて面白い。筆者の諺辞典，諺 587 により詳しい説明がされているので参照して下さい。

1287. Pequeña causa desparte, conformes amistades.
小さな原因が　気の合った友人をひき離す

－ 友情を保つためには気配り，心づかいが大切で，不用意な言葉，行為は友情を損なう原因になるということ。

－ コレアス諺集には次ぎの異表現“Pequeña causa departe, conformes amistades.

同訳”が見られる。

- La Celestina セレスティーナ”（Cátedra）の注釈者，Bruno Mario Damiani によると（注：324），“desparte”は“separa —ひき離す”のこと。
- 例題：セレスティーナ第 8 幕，カリストの従者が仲間に向かってこう言う，俺はいつもお前を兄弟だと思ったのさ。“No se cumpla, por Dios en ti lo que se dice que: <pequeña causa desparte conformes amigos>. 小さな原因が仲のよい友だちをひき離すといわれているようなことを，どうかお前はしないでくれよ。”（魔女セレスティナ，大島正訳）

1288. Pequeño (El) can levanta la liebre y el grande la prende.
小さな犬が兎を追い立て　大きな犬が捕らえる

- 大きな力を持っている者が，力の弱い者が立ち上げたものを横取りしてしまう。（バロス）
- 現在なら資本家対力のない個人という構図になろうか。例えば，企業で働いているエンジニアがなにか画期的なものを発明しても大儲けするのは企業でありそのエンジニアではない。最近ではそれが見直されている傾向があるが，まだまだ個人の力は弱いといってもいいだろう。
- 旧約聖書，シラ書（集会の書）でも，弱い者にことわざと同じ主旨の内容を警告している：“No levantes un peso superior a tus fuerzas, ni te juntes con personas más ricas que tú. 手に余る重い物を持ち上げるな。お前よりも力や金のある者と交わるな”（13－2）“Si eres útil al rico, hará que le sirvas; si le resultas inútil, te abandonará. 金持ちは，お前が役に立つかぎり，利用するが，お前が困っているときは，見捨ててしまう。Si tienes algo, ¡cómo te halagará! Pero no tendrá ningún reparo en explotarte. お前に財産があると，親しげに寄って来て，お前の財産を使い果たしても，平然としている。”（13－4－6）

1289. Pera que dice Rodrigo no vale un higo.
喋るナシは　一文の値打ちもない

- 切ったり，食べているときに音がすることをいう。（コレアス）
- コレアス諺集には，次ぎの異表現“Pera que habla, no vale nada. 同訳”が，同義

では，“La pera y la doncella, la que calla es buena. 女もナシも黙っているのが上等”（筆者の諺辞典，諺 1010 を参照）が，それぞれ収載されている。日本の梨は，噛むときの歯ざわりがよく，サクサクと音を立てるのが上等であるとされているが，西洋ナシは，柔らかく，汁が多くてみずみずしく，更にふくいくとした香りがあるものがよいとされている。近頃の日本では西洋ナシの方が人気があるのではなかろうか。

1290. Perdido es quien tras perdido anda.
分別のないものを追う者は　破滅する

- 価値のないものを追い求める者については，世間ではよく言わないのが普通である。（スバルビィ）
- 同じようなことが新約聖書では，主イエスの御言葉として語られている：“Y si un ciego guía a otro, los dos caerán en algún hoyo. 盲人が盲人の道案内をすれば，二人とも穴に落ちてしまう。”（マタイによる福音書 15－14）
- 例題；セレスティーナ第 1 幕，セレスティーナのような悪党の忠告に従おうとしている主人カリストを指して，従士のひとりが諺をおもわず口にする，“...Perdido es quien tras perdido anda. ¡Oh Calisto desaventurado, abatido, ciego! Y en tierra está adorando a la más antigua y pura tierra,... 破滅のあとを追っていく者は破滅するかな，だ。おお，不幸なカリストさま，散々やられて盲目になっていなさる！あの方はこの世で一番のばばあの淫売を敬っていなさるのだ。”（魔女セレスティナ，大島正訳）

1291. Perdiendo tiempo no se gana dinero.
時は金なり

- 英語の“Time is money”をスペイン語では“El tiempo es oro”と言う。見出しの諺の直訳は，“時間の無駄遣いは，金の無駄遣い”この諺がコレアス諺集（17 世紀）に収載されているということは，すでに時間を経済的な視点からとらえていたことが分かっておもしろい。アメリカ人が“Time is money”と唱えだしたのはそう昔のことではない。
- 東洋の格言では，“時”は，単なる“時間”ではなく次ぎのように“好機”を意味するものが多い；“時は得難くして失い易し”（史記），“天の時は地の利に如かず”（孟

子)，“時に遇えば鼠も虎になる”など。

1292. Perdón (El) sobra donde el yerro falta.
過失がなければ　謝ることはない

- 誰からも求められていないのに，すすんで自分から弁明するのは，自分が悪いと思っているからである。
- 同義のことわざには“Explicación no pedida, malicia arguye. 自分から言い訳するのは，後ろめたいから”がある。
- 見出しの諺では，“perdón —許し”と“yerro —過失”，及び“sobra —余る”と“falta —足りない”をそれぞれ対比させている。
- 例題：セレスティーナ第 4 幕，屋敷の奥方様がもうこれ以上相手をしていられないとセレスティーナに，“Y tú, madre, perdóname, que otro día se verná en que más nos veamos. ところで，ねえあなた，ご免なさいな。もっとながくお話できる日もあるでしょうからね。”それに対し，セレスティーナは諺を使ってこう答える“Señora, el perdón sobraría donde el yerro falta. 奥方さま，わたくしめにご免なさいなどとおっしゃるなんてめっそうもないことでございますよ。”（魔女セレスティナ，大島正訳）

1293. Los peregrinos, muchas posadas y pocos amigos.
さすらう者は　たくさんの宿屋と　わずかな友人

- 住居の定まっていない者は，宿を変える度に新しい顔に出会う。そこでは，真に堅く結ばれた友情を築くのは難しい。
- これとは反対に，気楽に放浪しているほうがいいという諺もある，“Más vale en paz y peregrino, que entre parientes y con ruido. 気楽に放浪しているほうが，うるさい親戚の中にいるよりよい”（筆者の諺辞典，諺 876 を参照）あちこちさまよっていれば，確かに親しい友人はできないかもしれないが，わずらわしい人間関係からは逃れることはできる。
- 例題：セレスティーナ第 1 幕，幼い頃に知っていて再び出会ったカリストの従者のひとり，パルメノに向かって，セレスティーナがこう言う，“Que, como Séneca dice, los peregrinos tienen muchas posadas y pocas amistades, porque en breve

tiempo con ninguno no pueden firmar amistad. セネカが言っているように，さすらいの人には宿はいくらでもあるが，友人はほとんどいないものよ。短い間では，ほんとうに仲よくなれないからね。”（魔女セレスティナ，大島正訳）

1294. Pereza es madre de pobreza.
怠惰は　貧困の母

－ 勤勉であること，努力することの尊さを教えている。つまり，“La diligencia es madre de la buena ventura. 勤勉は幸運の母”（筆者の諺辞典，諺 417 を参照）であると言い方を変えて同じことを謳っている。

－ 同様に，“pereza —怠惰”について次ぎのような辛辣な諺がコレアス諺集に見られる；“Pereza, llave de pobreza. 怠惰は，貧困の鍵”，“La pereza no lava cabeza, y si la lava no la peina. 怠け者は頭を洗わない，もし洗っても，髪をとかさない”，“La pereza nunca hizo cosa bien hecha. 怠け者は，決して物事をきちんと仕上げない”，“El perezoso siempre es menesteroso. 怠け者は，常に貧乏である”，“El perezoso tenga la hormiga delante del ojo. 怠け者は，目の前に蟻（の勤勉さ）を見ればいいのに”，“El perezoso vivirá deseoso. 怠け者はいつでも物欲しげに暮らすだろう”など。

－ 諺の源と思われる旧約聖書の中では，“怠惰”がもたらす弊害，つまり，貧乏，欠乏，空腹などが説かれている；“Anda a ver a la hormiga, perezoso; fíjate en lo que hace, y aprende la lección：怠け者よ，蟻のところに行って見よ。その道を見て，知恵を得よ。---------- asegura su comida en el verano, la almacena durante la cosecha. 夏の間にパンを備え，刈り入れ時に食糧を集める。”（箴言，6－6－8）“..... la pobreza vendrá y te atacará como un vagabundo armado. 貧乏は盗賊のように，欠乏は盾を持つ者のように襲う。”（箴言，6－11－12）“Cuando es tiempo de arar, el perezoso no ara; pero al llegar la cosecha, buscará y no encontrará. 怠け者は冬になっても耕さず，刈り入れ時に求めるが何もない。”（箴言，20－4－5）“Poco trabajo, pobreza; mucho trabajo, riqueza. 怠惰な人の手は貧乏を，勤勉な人の手は富をもたらす”（箴言，10－4－5）“El cazador perezoso no alcanza presa, pero el diligente alcanza grandes riquezas. 怠惰な者は獲物を追うこともしない。勤勉な人は貴い財産を手に入れる”（箴言，12－27－28）など多数見

いだされる。

– こちらには，怠惰な気楽な生活は，一度身につくとなかなか止められないという“乞食を三日すれば止められぬ”がある，またいくら財産があっても働かないで遊んで暮らせばやがてはなくなってしまうという“座して食らえば山も空し”，“遊んで食らえば山も尽きる”などの諺がある。

1295. Perrillo de muchas bodas no come en ninguna por comer en todas.
婚礼好きの犬は　あちこちでつまみ食いばかりするので　満腹しない

– 同時にあらゆることに気を配る者は，どこにも深く気を留めることができない。（筆者の諺辞典，諺 257 を参照のこと）

1296. Perro alcucero, nunca buen conejero.
甘やかされた犬は　兎を捕らえない

– 快適で食べ物に不自由しない環境で育てられた子供は，働き者にならない。（スバルビィ）

– 故に，次ぎの諺では，子供は厳しくしつけなければならぬと教えている；“La coz de la yegua, no hace mal al potro. 雌馬の蹴りは，子馬を傷つけない”（筆者の諺辞典，諺 315 を参照），“Ese te quiere bien, que te hace llorar. 愛しき子には，杖で教えよ”（同辞典，諺 583 を参照），“Quien bien te quiere te hará llorar. 本当に思ってくれる者が，おまえを泣かせる”（同諺 583 を参照）

– 日本でも，子供のしつけに関しては，同じように考えられている；“親の甘茶が毒になる”，“親の甘いは子に毒薬”，“可愛い子には旅をさせよ”（苦労の多い旅をさせたほうが子の将来のためになる），“可愛い子には灸（きゅう）を据えよ”，“愛しき子には杖で教えよ”，“獅子の子落とし”など，いずれも愛しい子供は厳しく育てなければしっかりした人間になれないとおしえている。

1297. Perro (El) con rabia, a su dueño muerde.
怒り狂っている犬は　主人さえも噛む

– 激怒している者は，正常な状態ではないのでとても危険である。（スバルビィ）誰か

に復讐したいと強く願っている者は，自分自身をも傷つけることになる。（バロス）

－ 異表現が次ぎのようにある；“El perro con rabia, a su amo muerde, o de su amo traba. 怒り狂っている犬は，主人さえも噛む，或いは，主人さえも踏みつける”（スバルビィ諺辞典），“El perro con rabia, de los palos traba. 怒り狂っている犬は，棒きれさえも踏みつける。”（コレアス諺集），“El perro con rabia, de su dueño traba. 怒り狂っている犬は，主人さえも踏みつける”（同諺集）

－ 人というものは，激しく怒っている時には，完全に分別を失っているのでどんな暴言を吐き，どんな行為をしているのか判断できない。そのような言動が後でどんなに自分自身を窮地に追いこむかなどその時は気がつかないのである。旧約聖書では，激しやすい人を戒め，忍耐強くあれと，教えるのである；“El que es impulsivo provoca peleas; el que es paciente las apacigua. 激しやすい人はいさかいを引き起こし，忍耐深い人は争いを鎮める。（箴言，15－18－19）“No te hagas amigo ni compañero de gente violenta y malhumorada. 怒りやすい者の友になるな。激しやすい者と交わるな。”（箴言，22－24－25）“No te dejes llevar por el enojo, porque el enojo es propio de gente necia. 気短に怒るな。怒りは愚者の胸に宿るもの。”（コヘレトの言葉，7－8－10）“Ira y enojo son cosas detestables, pero de picador nunca se apartan. 憤りと怒り，これはひどく忌まわしい。罪人にはこの両方が付きまとう。（シラ書，27－30）